

高崎市内遺跡埋蔵文化財
緊急発掘調査報告書12

1998

高崎市教育委員会

序

高崎市は地理的に首都に近く、日本海側からも太平洋側からも、およそ中間に位置しています。現在、「交流拠点都市高崎」の言葉を町づくりの基本方針として活動しています。昨年は高崎市内を通る二つ目のJ R新幹線、長野新幹線が開通し、都市としての機能も一段と増してきました。

高崎市は市制100周年を西暦2000年に迎え平成10年3月に新市庁舎を落成し新たな気概を持って出発しようとしています。一方、他に目を転じますとバブルの崩壊に依り不安と緊張感が社会に広がってきています。従来の我々の生活態度の見直しを迫られています。

発掘での成果は高崎市の西部、剣崎長壽寺遺跡で10号方墳から貴重な金製垂飾付耳飾りが出土。また多くの古墳と遺物を出土して話題になりました。今年も発掘作業を継続しています。成果が期待されます。

しかし、発掘の成果は即遺跡の破壊にも関わることになるわけですので、注意を要します。開発は日々絶え間なく行われている状況にあります。貴重な文化財の減少につながるものであります。我々の試掘調査が市内の文化財の破壊を僅かでも防ぐことになれば幸いです。

ここに報告します試掘調査結果報告書は高崎市の平成9年度事業の1年間のものであります。これにより市内の遺構の性格、分布等の貴重な資料を得ることが出来ました。試掘調査にあたり、御協力してくださいました依頼者の方々、発掘作業、整理作業に従事してくださいました皆様に感謝を申し上げます。

平成10年3月

高崎市教育委員会
教育長 砂田 威夫

例言

1. 本報告書は平成9年度、市内試掘調査の結果報告書である。
2. 事務局体制：神戸聖徳 村井田親明
倉澤かおる
試掘・立合：神戸聖徳が主に担当した。
3. 報告書作成の整理は担当者として武井幸子、山口敦子、石膏と遺物写真は中村貴が、他に小川泉、善如寺陽子、磯田節子が行った。
4. 記録、遺物等は教育委員会が保管している。

凡例

1. 調査の数字は一覧表Noに対応する。
2. 図中の高さは調査地、任意の位置を0とした。
3. 文中のB、F A、Cは平安、古墳、4世紀後半のテフラを、Aは天明の浅間山噴火のテフラを言う。
4. 位置図は高崎市発行1/2500地形図を原図とし、1/5000に縮尺した。
5. ▲印は土層位置図。

目次

序	
例言	
凡例	
平成9年度高崎市内試掘調査一覧表	1
平成9年度試掘調査位置図	3
調査内容	
2. 飯塚新田西	4
6. 石原堀迎	5
9. 下滝赤子	7
29. 高岡村前A	9
31. 下小島屋敷ノ内	11
34. 井野天木	12
43. 上並根八反田	13
32,45. 高岡村前B	15
47. 飯塚慈音寺	17
52. 柴崎西浦	18
54. 上小嶋東原	20

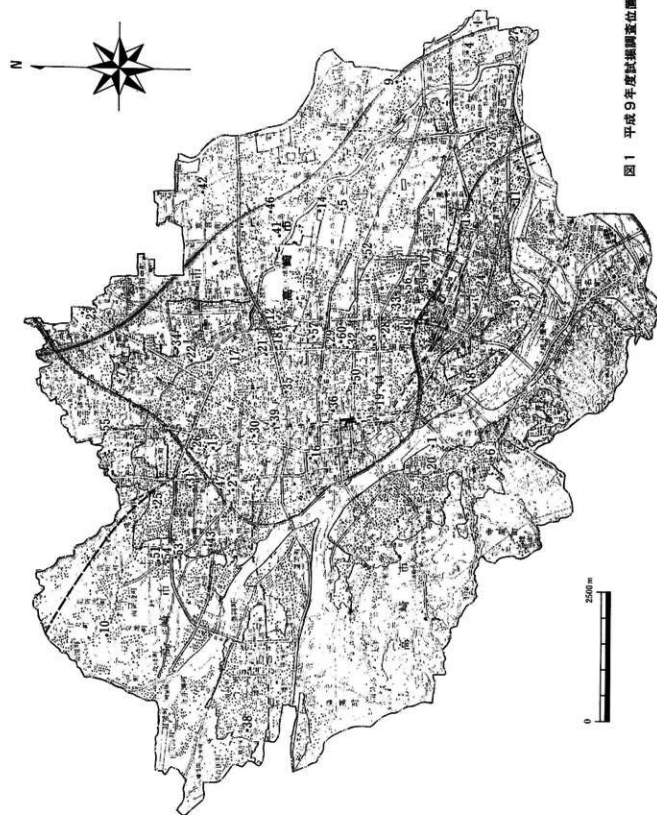
平成9年度 市内試掘調査一覧表

No.	所在地	開発内容	開発面積	調査内容	備考
1	石原町川久保4129	共同住宅建設	1232.60㎡	川原砂とシルトの堆積、河川敷	
2	飯塚町新田西123-3 ほか	スーパーマーケット建設	9063.07	B軽石、F A F水田、C軽石まじる褐色土 水田可能性	4ページ
3	下佐野町前342-3,4	商業施設 基地造成	265		
4	八幡原町前898,901	駐車場	3540	保存される。隣接では削平され遺構なし	立会
5	南大瀬町金井分510-1,509-11	店舗新築	641.75	遺構遺物なし	立会
6	石原町前3735 ほか	住宅用地	1489	古墳（帆立貝式）確認、埴輪片出土	5ページ
7	中尾町前644-22	共同住宅	341.73	遺構、遺物なし	立会
8	上中居町前278-3	※	932.62	B軽石堆積。遺構確認できず	
9	下滝町赤子779-3	商業施設 地盤改良	204.	F A洪水下。畦、畝状遺構。遺物出土	7ページ 調査
9①	※	※	20.2	遺物出土、接合二ツ岳。洪水下水田、水路跡	※
10	楽岡町石神9-1 ほか	障害者福祉 作業所建設	2770.5	河川により、遺構削平、B軽石なし	
11	金賀野町甲大瀬南3131-2	墓等のための 掘削工事		遺構確認できず。地輪、土師器、須恵器出土	(H7-18)
12	上大瀬町新田地1153-1 ほか	共同住宅	1219.75	中、近世溝	
13	金賀野町止瀬前4676-2 ほか	住宅見示場	1856	遺構、遺物なし	
14	中大瀬町一丁H、北田 ほか	道路拡張		B軽石下、水田土壌	立会(H8-106)
15	飯塚町左近331-1	建設分譲住宅	1224	F A洪水に埋没した溝	
16	柳川町84、85-1	駐車場建設		B軽石、F A洪水層あり	立会
17	江沢町森塚1257-1	店舗建設	2936.56	遺構なし	
18	上大瀬町野池田910-1 ほか	テナント建設	1562.73	遺構なし、北辺にB軽石下水田土壌	
19	双雲町108-3	共同住宅	1836.09	一部B軽石下水田土壌あり、擾乱	立会
20	石原町度田3214-1	※	1063.39	A、B軽石擾乱、遺構なし	
21	上大瀬町八反田839-1	店舗建設	2455	北側 B軽石下水田は削平 南はあり	
22	貝沢町浅敷54-1	分譲住宅	1459.92	水性堆積物あり、河川敷か	
23	日高町江田地137-1	倉庫増築	330.55	B軽石下水田の可能性	
24	金賀野町上瀬前877-25	道路建設		9世紀堅穴住居跡他	本調査
25	下小島町前215-1,3	共同住宅	572.12	F A、F P混流	立会
26	岡屋町西1-8-1 ほか	店舗新築	595.85	B軽石擾乱。すぐに基盤、遺構なし	
27	八幡原町宮宮2006-2	露天駐車場	1331	土坑内古墳時代土器出土	
28	上中居町前屋敷703-1	ビル建設	284.35	B軽石純層あり、その下水田の可能性	立会
29	高岡町前5-1	建設分譲住宅	2348	古代の溝1条、土坑2基	9ページ A
30	飯塚町東金井1231-5	共同住宅	4354.22	B軽石擾乱。水田は不明確	
31	下小島町屋敷ノ内47-4	共同住宅	857.24	B純層なし、F A F洪水土層の下層に溝あり	11ページ
32	高岡町前41-1 ほか	大規模新築	8372.11	平安時代の遺物出土	15ページ B
33	中居町4-11-19	店舗新築	208.61	遺構なし、自然地形状の溝（土坑）	

No.	所在地	開発内容	開発面積	調査内容	備考
34	井野町天水1032-1 ほか	運動施設整備	2389.1	B軽石下駄検出、下層にC混り層あり	12ページ
35	江木町舞台564-1	分譲住宅	1697.87	B軽石堆積、下部シルト	
36	東町605	道路拡張		B軽石層、FA洪水層確認	
37	倉賀野町原東2787	分譲住宅	1233.36	B軽石混り、下層は泥炭層	
38	八幡町下谷津969 ほか	〃	1200	北にB軽石層、下部シルト、礫層	
39	芝罘町164-3	分譲マンション	6850.55	B軽石層確認	
40	矢中町村西48-2	店舗併用住宅		わずかにB軽石あり	立会
41	矢島町村前100 ほか	砂利採取	11137	砂、シルト堆積、下部礫層、北東部にB軽石層	
42	京町入原07 大沢町大沢622-6 ほか	道路拡張	527.12	B軽石層、C混り土層あり	
43	上並根町八反田189-1、2	一戸建住宅	172.7	清検出、遺物多数出土	13ページ
44	双葉町108-3 ほか	集合住宅	1836.09	B軽石混り土層あり、洪水土層、水田なし	立会(119-19)
45	高岡町村前41-1 ほか	大型店舗建設	8732.11	B-C軽石混り土層下で遺物あり、土器、土灰、ヒツ、溝検出	15ページ B
46	元島名町中子1212-1	事務所、トラックターミナル	1574.3	遺構なし	
47	飯塚町慈合寺72-1 ほか	貸店舗用地	4206.41	CF、FA洪水土層下、水田可能性あり、B軽石下水田畦検出	17ページ
48	上佐野町寺前513-2	飲食店建設	1.0	古堀中に電柱設置、西に向かって落ちる、両石のくずれ多数	立会
49	下之城町村北172-9	資材倉庫及び事務所	375	遺物検出	
50	岩押町121-1 ほか	共同住宅	1130.31	B軽石層10cmほど確認、擾乱破壊範囲広い	立会
51	上小嶋町村東849	バインダリー	1659	B軽石純層あり、FA、C下水田可能性あり、保存	
52	柴崎町西浦815-1	〃	1458	平安時代の台付甕、甕、石斧出土、盛土保存	18ページ
53	上小嶋町東原1056 ほか	店舗、駐車場	7491.73	FA、FP洪水土層堆積、設計変更と盛土保存	
54	上小嶋町東原1006 ほか	ガソリンスタンド建設	1845	南にB軽石下水田、畦検出、北は洪水土層、盛土保存	20ページ
以下は次年度へ続く					

平成 8 年度 市内試掘調査一覧表

No.	所在地	開発内容	開発面積	調査内容	備考
100	上中岡町西原敷252-1	共同住宅	166.6	遺構、遺物なし	立会
101	町屋町四ツ田748	開場整備		古墳ではなし	
102	新保町八敷1555-1 ほか	ガソリンスタンド建設	1240	B軽石下、道路状遺構	調査
103	上佐野町佐野堀706-10 ほか	ガソリンスタンド整備	1142.74	擾乱、遺構・遺物なし	立会
104	下之城町村前770	高層ビル建設		B軽石、堆積・遺構なし	
105	町屋町四ツ田720-3 ほか	工業地造成		遺構なし、遺物なし、河川敷	
106	中大須町一丁北田	道路拡張	約4.5 ha	地下44cmにB軽石下水田あり	立会
107	倉賀野町原南2677-1	店舗建設		遺構確認できず	立会
108	下之城町村東530-1	バッキングセンター	1993	B軽石下水田、畦検出	
87①	飯塚町赤土西1414	分譲住宅	1453	B軽石下水田、南北大畦呼検出	調査
88①	町屋町4-5-4	トラック協会事務所建設	1780.36	B軽石下水田、置石、水田面は一部破状	調査



調査内容

2. 飯塚新田西

- (1) 所在地 飯塚町新田西123-3他
- (2) 調査期間 平成9年4月7日
- (3) 対象面積 9063.03㎡
- (4) 開発内容 スーパーマーケット建設
- (5) 経過と結果

本調査地は市内から淡川に向かう地方道路、高崎・淡川線が東に走る市営飯塚住宅の道路西に隣接する場所である。試掘調査地付近西には並根北II、III遺跡、飯塚新田西・雁田遺跡がある。前者では古墳時代、平安時代と古墳時代より古い水田遺構を検出、後者は古墳、平安時代の水田遺構を検出している。当然に試掘調査地においても以上の遺跡と同じ水田跡があると予想された。

トレンチは関係者の協力をえて13本調査を行った。

浅間B軽石は全トレンチに10cm前後の層として良好な堆積状態であった。明確な畦は1、6、7のトレンチに検出。他のトレンチ内にも畦、人の足跡らしきものが見られた。B下の下層においてはF A洪水土層と、直下に黒色土層を、さらに下層にC混じり黒色土層を認めた。



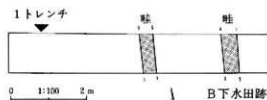
全景 南から



5トレンチ 南から



図2 位置図



- | | |
|---|------------------------|
| 1 | 表土 (現耕作土) |
| 2 | 浅間B軽石層 |
| 3 | 水田土層 |
| 4 | 灰褐色粘質土層 |
| 5 | 黄褐色土、ニッ指噴火時洪水堆積物 (6世紀) |
| 6 | 黒褐色粘質土層、水田土層 |
| 7 | 浅間C軽石 (4世紀中頃) 混じり土層 |
| 8 | 黒褐色粘質土層 |
- S=1/40

土層図

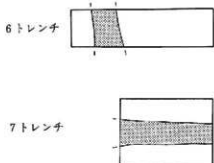


図3 1.6.7トレンチ畦畔平面図

6. 石原鶴辺

- (1) 所在地 石原町鶴辺3735他
- (2) 調査期間 平成9年4月22日
- (3) 対象面積 1489㎡
- (4) 開発内容 住宅用地
- (5) 経過と結果

対象地は畠の中におよそ円形の小高い状態にある。これにボヤ火災が起きたのが発端で、文化財保護課に調査の依頼があった。対象地は篠竹が密集し、まばらに灌木が生え、藁の束が延びていた場所である。周囲を歩いてみると地輪が散布して、古墳が予想された。トレンチは頂上に向け、任意の位置に3本入れた。1トレンチは長さ16.5m、幅0.8m。2トレンチは長さ13.5m、幅0.8m。3トレンチは長さ9.0m、幅0.8mである。1トレンチ内隅に古墳の石積の扉石を発見、すぐ東はテラス状になっていて、中程



図4 位置図

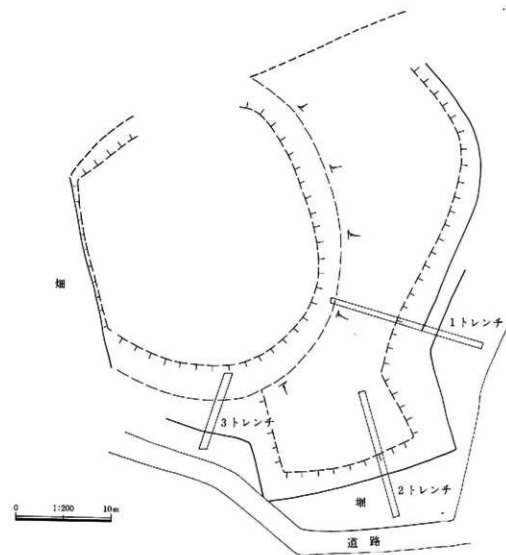


図5 古墳跡平面図



全景 南から



3号トレンチ 南から

で一段下がる。此の部分にも瓦石が見られた。また段の下隅から1.5mの位置から東に黒色土が広がり、古墳の堀の存在が考えられた。2トレンチは北上から南下に次第に下がって、トレンチの途中で段になって落ちる。この段の部分に瓦石が見られ埴輪が出土している。3トレンチの北寄りには急斜面の段で、瓦石が見られる。トレンチ南端から2.2mのところから南側は黒土であり古墳の堀が存在すると推定される。トレンチ調査によって、1トレンチでは墳丘が2段になっていることと、堀の存在が確認された。3トレンチは墳丘と堀を確認。2トレンチは下の段がやや南に張り出すことを確認した。これらを参考に現状の地形にあてはめて描いたものが図のものである。計測は簡易なものであるが、出来た推定図からすると古墳は2段からなり、南側に張り出しが見られる。こうした形は帆立貝式古墳と呼ばれる形態である。墳丘は北に人家があり、西側は畑によって削られているが、墳丘の長さは50m以上と推定される。トレンチ調査で出土した埴輪は5世紀末から6世紀前半の特徴をゆうしている。今回の調査した古墳も5世紀から6世紀にかけてのものと推定される。



図6 出土遺物実測図

9. 下滝赤子

- (1) 所在地 下滝町赤子799-3
- (2) 調査期間 平成9年5月12日～14日
- (3) 対象面積 204㎡
- (4) 開発内容 携帯電話用鉄塔建設
- (5) 経過と結果

開発予定地は4月18日にトレンチ調査を行って、古代の遺構を確認している場所である。今回は対象地を少し広げ遺構面の精査を行った。調査面積は20.2㎡である。

遺構の直上まで重機で土砂を除去し、その後は人力によって掘り下げた。〈セクション図〉セクション、エレベーション図の数字は地表からの深さ(cm)である。1層は褐色土。褐色土の0.5～2cm大の粒子を含む。3層は灰黄褐色土。土の質は2層に似る。

4層は灰黄褐色土。褐色土の粒子を含む。5層は黄色土層。2、3、4層よりやや粒子が粗いが土の状況は似ている。6層は黄色土。灰色土が層をなす。7層は褐灰色土。

川原砂がかなり含まれ、水が流れていたことが予想される。8層は7層に似る。やや黒い土。9層は黄色土。粒子の細かい土。10層は灰黄褐色土。粘性のある褐色土の粒子を含む。

遺構を直接に覆う土層は3、4、5、8、10層であるが、2～10層までは榛名山二ツ岳が6世紀に2回大噴火した時に起こった洪水によりもたらされた土層と考えられる。分層はできるが殆ど同時期の堆積と考えられる。出土した4片の土器は4～6世紀の葉の破片である。土器からも、これら土層の堆積は6世紀であると推定される。

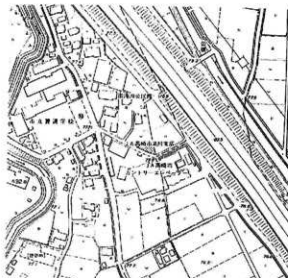


図7 位置図

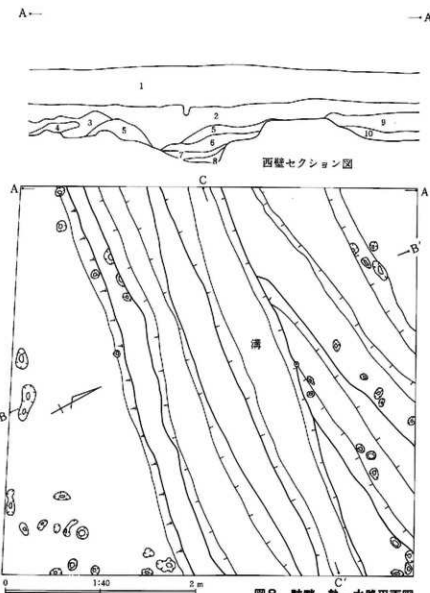


図8 畦畔、畝、水路平面図

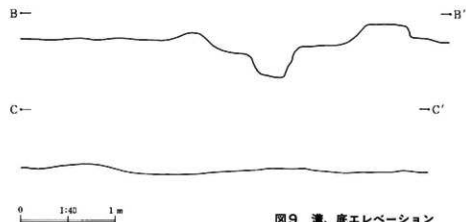


図9 溝、底エベレーション

遺構の性格：前回の試掘調査では溝と畦、畝跡と見られる畝が確認されている。今回の調査によって、中央に西から東に流れる幅70cmの比較的大きな水路と、その両脇の畦を発見した。その水路の両脇の畦より北の部分と水路の南の部分では畦は明瞭ではない。洪水土に覆われた直下の上は粘土質であり、東側に傾斜するものの地面は殆ど平らな面である。この面には部分的に人の足跡らしきものも見られた。よって、これらは畝跡ではなく古墳時代の水田跡の一部と考えられる。今回発掘調査した水田跡は一般的な高崎市の6世紀頃の水田跡の、いわゆるミニ水田とは異なっている。水路の南では少なくとも東西が4m以上はあるやや大きめの区画が考えられる。また水田跡の中央に水路があるが、この水路の底面近くには水が流れた痕跡である川原砂が堆積していた。今回発見した水路はやや規模の大きい古墳時代の幹線水路と考えられる。



溝・畦接写 東から



調査風景 南から



東から近写



南から

29. 高関村前A

- (1) 所在地 高関町村前5-1
- (2) 調査期間 平成9年7月8日
- (3) 対象面積 2348㎡
- (4) 開発内容 建充分譲住宅地
- (5) 経過と結果

試掘調査地は県道354号の南約240m、高崎駅東に走る環状線から東に約120mの位置にある。環状線、及びその周辺地域は遺跡の多い地域でもある。高関村前II、高関東沖、村前遺跡の東側近くにあり、今回はその4区東北にあたる。4区ではB下水田が検出された。該当地はBの掘る褐色シルト土層でBの純層はなかった。採集した出土土器はBの掘っていないシルト土層内である。櫛状器具で描いた簾状文のある土器とその時代の土器片である。いわゆる櫛式と言われるものである。上記遺跡の弥生時代の遺構との関連が伺われる。その他にL形トレンチの東トレンチ内に、南に向かう溝を確認した。それと土坑2基を検出した。

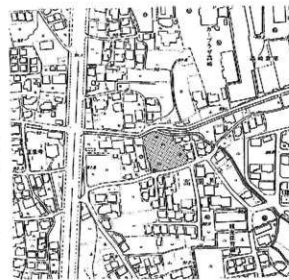
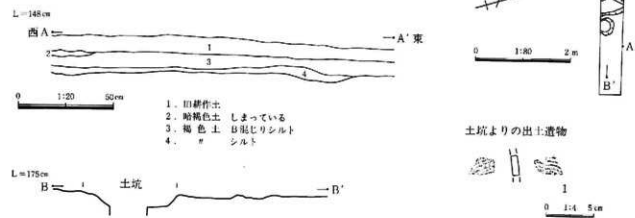


図10 位置図



土坑よりの出土遺物

図11 トレンチ、セクション図



東トレンチ 西から



南トレンチ 北から

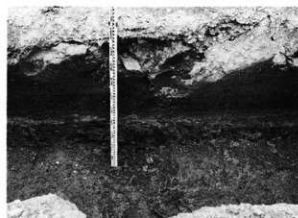


図12 高岡村前A 出土遺物実測図

31. 下小島屋敷ノ内

- (1) 所在地 下小島町屋敷ノ内47-4
- (2) 調査期間 平成9年7月3日
- (3) 対象面積 857.24㎡
- (4) 開発内容 共同住宅(家)建設
- (5) 経過と結果

調査所在地は市内から北に向かう地方道路、高崎・榛名・吾妻線西に接する場所に位置する。家建設に伴い試掘調査の依頼の話があった。試掘調査地は整地の最中だったので東西方向に1本のトレンチを入れた。重機により遺構を確認しながら目標になる地層近くまで掘削し、あとは手作業で行った。盛土を含め約70cm下まではA混じりないしA B混じりの土層。3層目はBが多量でありBを取り除くと薄い層の青色降下灰が覆っていた。降下灰下の土は少し粘りを持ち水田跡が考えられる。トレンチ内に畦は確認できなかった。その下の層はF A、F Pの洪水土層であり、その洪水層を覆上とした幅40~60cm、深さ約12cmの南北の溝を検出した。洪水土層にC混じり層と黒色粘質土を確認した。この層にも水田跡の可能性が考えられる。



トレンチ 南から



溝トレンチ 南から

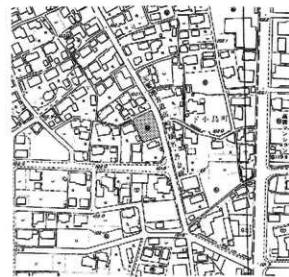


図13 位置図

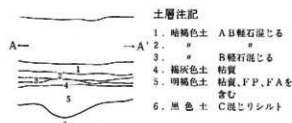
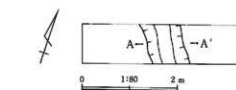


図14 溝、セクション図



トレンチ 西から

34. 井野天水

- (1) 所在地 井野町天水1032-1他
- (2) 調査期間 平成9年8月19日
- (3) 対象面積 2389.1㎡
- (4) 開発内容 運輸営業所新設
- (5) 経過と結果

本調査地は高崎駅東口前の道路を南北に走る地方道路、前橋・高崎線に接続する県道井野停車場線で、その交差点から東に約250mの距離、道路の南に接する位置にある。本調査地に接する西隣りは平成4年の試掘調査結果で遺構なし。東隣りの平成8年の試掘調査結果はB軽石層と下層の泥炭土層を認めたが、水田土層として認めていない。約150m離れた西南の場所は平成4年に試掘調査。結果は遺構なしとされた。250m西の前橋・高崎線を挟んだ西は昭和63年に立会、東は平成8年に試掘調査を行った。調査の結果は浅間B軽石層を認めても、B下水田跡は認められないとされている。さらにその調査場所から西北に約300mでは削平をうけたB下水田跡を検出している。

このように今回の試掘調査地の隣接地、あるいは近くに於いてはB軽石層下の水田跡は認めていない。今回、試掘調査地に2本のトレンチを入れた。〈結果〉北の第一トレンチに直角な東西方向の畦畔一条、南の第二トレンチに畦畔二条（平安時代後期）を検出した。B軽石は10cmの厚さの純層に覆われていた。土壌は黒色土。ごく僅かに粘るシルト質である。水田面は凹凸面があり。水位が高く、湧水が黒色に染まるところをみると、水田土壌は泥炭質を含んでいると思われる。畦畔は上幅26cm、下幅60～90cm、高さ4cmである。

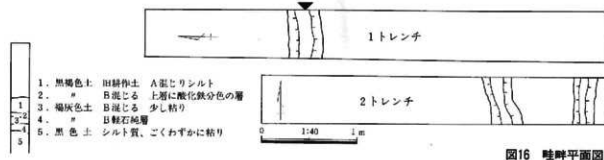


図16 畦畔平面図



トレンチセクション 西から



トレンチ全景 南から

43. 上並榎八反田

- (1) 所在地 上並榎町八反田189-1他
- (2) 調査期間 平成9年11月10日
平成10年3月5日
- (3) 対象面積 1727㎡
- (4) 開発内容 一戸建建築
- (5) 経過と結果

試掘調査地は中心地より西北に位置する上並榎地区を南北に横断する高崎市「並榎・浜川」線より、およそ西に300mに位置する。水田が多い場所だったが、近年埋め立てられて住宅地に変化している地区である。「並榎・浜川」線に伴い発掘調査された遺跡、周辺遺跡は並榎北遺跡、並榎北II遺跡、上並榎御料所遺跡、上並榎下松遺跡、上並榎下松II遺跡、並榎北II・III・IV・V遺跡がある。上記遺跡においてC、B、F A下水田跡を検出。また本試掘調査地周辺の微高地では古墳を残している。西北約270mに筑紫小皇山古墳がある。横穴石室を有した円墳で、6世紀の築造とされる。南に約170mに上並榎稲荷山古墳がある。墳丘の推定の長さは110mの前方後円墳である。5世紀後半の築造とされる。そのような環境の場所に住宅建設の跡があり担当課と協議し、開発業者の承諾をもって試掘調査を行った。今回の試掘調査地の北の隣接地において、B軽石下の水田跡を確認しており、その下のF A洪水土層下に溝を検出しているの、B下水田跡を推測した。トレンチは東西方向に一本入れた。〈結果〉現地表から下約76cmまで埋め土で、その下層に明褐色のローム土層が現れる。ローム上面は削平をうけている。層の厚さは108cmある。ローム下は泥炭堆積土である。ロームを掘り込んだ、上幅4.5m、深さ1.14mの溝（堀）を検出した。溝はトレンチ方位に対して東南に延びていくことを確認した。出土土器は溝（堀）からである。出土土器は形態から平安時代のもと考えられる。北の隣接地が水田跡とすると本試掘調査地の場所は微高地状であるので、地形の変換点にあたるような場所であると推測される。

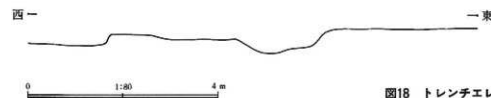


図18 トレンチエレベーション図



トレンチ 西から



トレンチセクション 西から

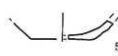
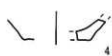
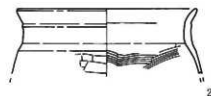


図19 上並榎八反田 出土遺物実測図



小型台付甕



甕 (上部分)

32. 45. 高関村前B

- (1) 所在地 高関町村前41-1他
- (2) 調査期間 平成9年7月28日
平成9年11月5日
- (3) 対象面積 8372.11㎡
- (4) 開発内容 大型店舗建設
- (5) 経過と結果



図20 位置図

本試掘調査地は高崎駅東口より、直線で東に約1.4kmの環状線の東に隣接する場所にある。本調査地の西隣の高関村前遺跡において弥生、古墳時代の竪穴住家跡や溝とそれに伴う土器が多数出土している。そのような近い所に試掘調査となった。7月28日の調査では、二本のトレンチを入れた。畑地でB混じり土層下に遺構の可能性があると考えられたが、湧水のため良く調べられなかった。

〈結果〉第一トレンチの上面は暗褐色～褐色土でA軽石を含む層、3層に分かれる。その下層にB含む暗褐色土層、B、C含む暗褐色土層。汚れたローム混じり、C混じりの褐色土層の順になる。ローム、C混じり土層に縄文後期が2点、古墳時代の高坏部分、須恵器片、土師器が数点、トレンチ内に全面散らばって出土。埴砂あり。またその土層を覆土とした切り合った溝2条を東側に検出。第二トレンチの現耕作土62cm下の黒褐色土のシルト質下にカマドかが跡を認めた。第三トレンチはA軽石の処理溝9条下層に30cm大のピット5カ所検出。



3トレンチ 西から

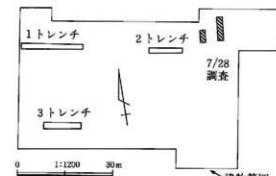


図21 トレンチ位置図



3トレンチピット 西から



1トレンチ 西から

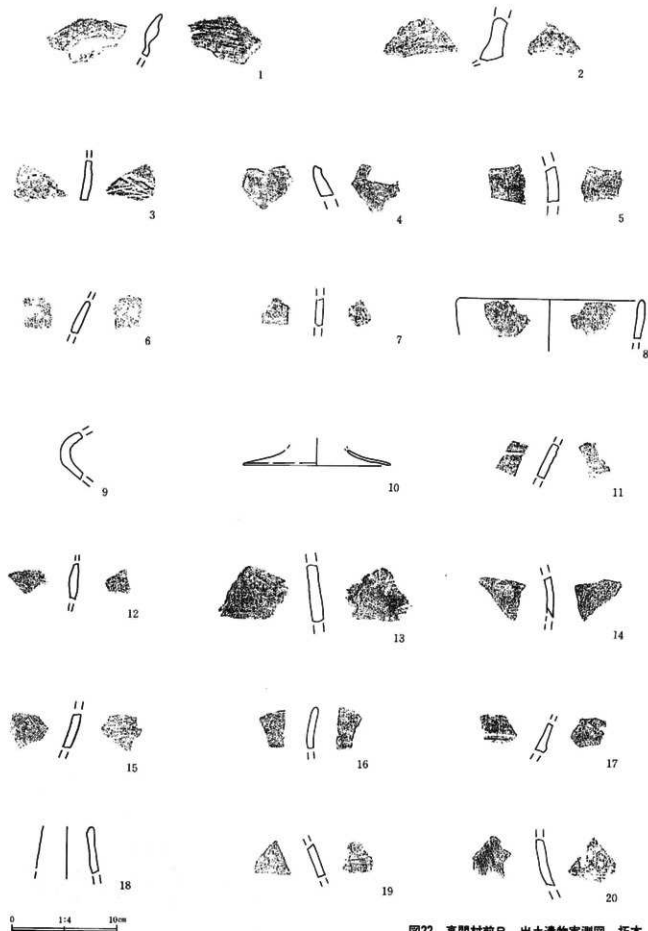


図22 高岡村前B 出土遺物実測図 拓本

47. 飯塚慈音寺

- (1) 所在地 飯塚町慈音寺72-1他
- (2) 調査期間 平成9年11月19日
- (3) 対象面積 4206.41㎡
- (4) 開発内容 貸店舗用地
- (5) 経過と結果

試掘調査地は市中心地の北西約2.5kmにあり高崎市、前橋市を走る17号線の南に接する場所にある。1/2500の地図によれば本試掘調査地は標高100mの位置にある。本調査地中心に北から西の範囲に0.6～1m標高が高く南から東南方向に低く下っていく。現況は水田である。

17号線から北の場所での試掘調査で、B下水田を疑ったのは昭和62年と平成4年である。B軽石層は昭和63年、平成5年にも確認している。F Aの堆積も一部確認している。南の場所では本調査地の南100mにB下水田、340mにB下水田、340m西南にB下水田とF A洪水層を確認している。そのような状況で試掘調査を行った。〈結果〉現水田地表面から約40cm下に厚さ10cmのB軽石層の下に図の如く畦を検出した。上幅20cm、下幅54cm、高さ8cmである。トレンチ内のレベルは殆ど平らであるが、25m南のトレンチのB下水田のレベルを比較すると約2cm南が低い。下層にC混じり土層確認。

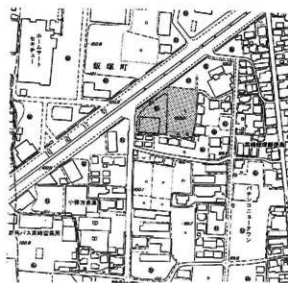


図23 位置図

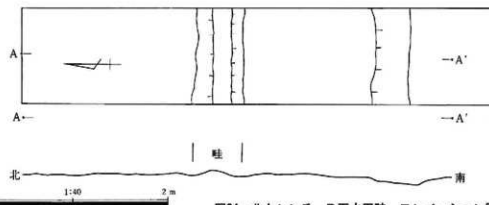


図24 北トレンチ B下水田畦、エレベーション図

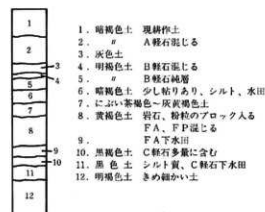


図25 標準土層図



北トレンチ 南から

52. 柴崎町西浦

- (1) 所在地 柴崎町西浦815-1
 (2) 調査期間 平成10年1月8日
 (3) 対象面積 1458㎡
 (4) 開発内容 ドライブイン建設
 (5) 経過と結果

本試掘調査は高崎駅東口より東に直線で約3.1kmの場所にある。現地形では平らである。ここから北側に向かって低くなっていく。微高地状の縁に近く、地形の変換点に近いような位置になると考えられる。縁より少し南に上がったところである。付近の東に進雄神社がある。過去の試掘調査によれば、本調査地の南150m内には遺構はみつかった。平成5年には道路を挟んだ西隣でも遺構なしであった。しかし、此の場所より北側になるとB下水田跡が検出されている。〈土層〉調査地に北と南に2本のトレンチを入れた。トレンチ間は約40mであるが南トレンチの土層は図の北トレンチ土層図とは違い、旧耕作土層、下の黒褐色土層16cmの層厚下は褐色の泥炭堆積層である。泥炭堆積土層は約30cmあり、その下の層は川砂を含んだ明褐色土層である。北トレンチの土層では5に対応する。此の層での比高は14cm北が高く、南が低くなっている。〈結果〉北トレンチ2と3の土層で土器が出土した。現表土44cmから72cmの間（遺物出土写真）である。坏部分、甕、台付き甕等。石片はトレンチ内である。遺構は



図26 位置図

確認できなかった。南トレンチでは泥炭堆積土層を掘り込んだ幅約2.3m、深さ0.76mの南北の溝を確認した。溝の傾きは磁北より8度東である。〈土器〉Na1は土師器。台付甕。口径13.7cm、器高20.5cm、裾部径10.2cm。胴部外面：中央部分から下部は縦方向にヘラ削り、上半部は横方向にヘラ削り、器壁は薄い。口縁部は二度に行われ、強いナデに依り間に盛り上りの縁を残す。内面はヘラナデ。口辺部内面は指ナデ。裾部はわずかな弓なりのハの字に広がる。Na3は土師甕。胴部分。内外の器面はヘラ削り。極度に削られた器内は2.4～3.8mmである。以上の特徴から9、10世紀頃の土器が考えられる。Na2は推定口径21cmの胎土比較密な台付甕。

1
2
3
4
5
6

1. 旧耕作土
 2. 黒褐色土 土器片出土
 3. シルト質、土器包含層
 4. 褐色土 ローム、泥炭堆積土を含む
 5. 明褐色土 川砂を含む
 6. 白っぽい褐色 粘質土

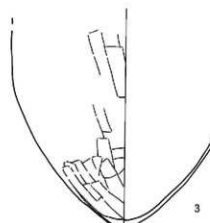
図27 北トレンチ土層図



南トレンチ北壁セクション 南から



北トレンチ 東から



0 1:4 10cm



口縁台付甕

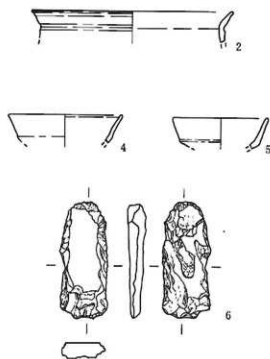


図28 出土遺物実測図



出土遺物



北トレンチ遺物出土状況

54. 上小鳩東原

- (1) 所在地 上小鳩町東原1006地
- (2) 調査期間 平成9年1月20日
- (3) 対象面積 1845㎡
- (4) 開発内容 ガソリンスタンド建設
- (5) 経過と結果

本試掘調査地は中心地からおおよそ4km西北にあり箕郷町に向かう並根・浜川線と環状線が交差する場所にある。

調査地の比高は200m北で1.2m、200m南で1.7mである。標名山の南面に広がる扇状地形の扇端寄りに近い位置にある。湧水の多い所で、見た目より土地の傾斜を残している。過去の試掘調査において、100m東でB下水田を検出。200m東でB軽石、右も遺構は確認できていない。北200mは上小鳩村東Ⅰ・Ⅱ遺跡で弥生、古墳時代の水田跡、畦を検出。縄文時代の埴片、土器片を出している。北へ約500mには上小鳩稲荷山古墳がある。横穴石室を持つ円墳で古墳時代後期とされる。

その様な場所にガソリンスタンドの建設の話があり、埋蔵文化財係に試掘調査の依頼があった。試掘調査地は12cm以上も雪が残っている状態であった。最初に重機で雪を除きながら少しずつ、注意深く掘削していった。

〈結果〉 南トレンチで浅間B軽石層の下で東北方位の畦と凹凸面をした水田跡を検出した。南トレンチは東西方面に入れた。B軽石層は旧耕作水田面より約30cm下から、10cmの層厚である。畦幅67cm、高さ約4cm。畦上面も凹凸面を多く残した、くずれのある形状をしている。

1	1. 灰褐色土 田耕作土を含む
2	2. # 浅間山B軽石層
3	3. 黒褐色土 粘質
4	4. 褐色土 腐植質、軽石、軽石土
5	5. # シルト質、洪水土壌
6	6. # 浅間山C軽石層
7	7. # 少し粘る。シルト質シルト質

図30 南トレンチ土層図



図29 位置図



南トレンチ 西から



東トレンチ 北東から

おわりに
あらゆる問題と混迷を深めている状態の日本社会である。とりわけ経済に限って言えば、バブル崩壊後の影響は今年度の試掘調査の取扱件数にも現れていると思う。
試掘調査報告書の内容について言えば、紙幅や時間の制約があり、十分な意を尽くすことができなかった。半端な感じは否めない。紹介程度となった。今後、工夫と資料の充実に努力したいと思います。

抄 録

ふりがな	たかきしなないせきまいずうふかざいせんきょうはつしつうきほくこくし
書名	高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告
シリーズ番	第154集
編著者名	神戸 肇
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町1
発行年月日	1998年3月31日

高崎市文化財調査報告書第154集
高崎市内遺跡埋蔵文化財
緊急発掘調査報告書12

平成10年3月31日印刷
平成10年3月31日発行

編集者 高崎市教育委員会
文化財保護課埋蔵文化財係
発行者 高崎市教育委員会
印刷所 株式会社 精真社

